校長室だより



平成29年11月10日(金) 羽咋市立瑞穂小学校 No. 7



11月に入り、朝夕の寒暖の差が激しくなってきました。遠くの山々に靄が立ち上る景 色も見られます。冬が近づいているようです。

10月には人権教育研究発表会が無事終了しました。また、11月2日の「絆コンサー ト」にもたくさんの地域や保護者の皆さまにお越しいただきありがとうございました。

さて、瑞穂小学校は今年、羽咋市PTA連合会会長校として、西山PTA会長を中心に 羽咋市PTA連合会研究協議会を西北台小学校PTAのご協力を得て開催することができ ました。当日は台風21号による悪天候の中でしたが、会員の皆さまのご協力で無事終え ることができました。感謝状を受賞された濵名前PTA会長を始め昨年度の役員の皆さま、 おめでとうございました。また、運営にお力添えをいただきました現役員の皆さま本当に ありがとうございました。

この大会では、講師として野々市市教育センター専門相談員で臨床心理士の寺井弘実氏 をお招きし、子供の「こころの成長」についてお話をうかがいました。親として知ってお きたい貴重なお話でしたので、紙面を借りてご紹介します。

## ライフサイクルの視点で見るこころの育ち

子供時代は小学校4年生(10歳)ごろまで

人生で蓄える心のそだちの2分の1がこの10年間に作られる。 (試練、折り合いをつけるなどの経験を通して)



「子供の時代は根作りの時代」

小学校5年生~中学生は 思春期=こころの嵐の時代と言われている。 青年期(前期)

青年期(後期) 高校生~24歳ごろまで

成人期(前期) 24歳ごろから

この頃は、保護者としてPTA活動を通してのこころの育ち ┦成人期(中期)

成人期(後期)

こころの健康:子供は誕生から発達段階に応じた関わりの体験を通してこころが成長していく。

## 発達段階に応じた関わり方と獲得するこころの力(〇歳~中学生)

発達段階:環境	関わり方の変化	獲得するこころの力
〇〜1歳:家庭や保育園	※母性(無条件の愛)	人に対する信頼(「生まれてきてよかった」の基礎)
1~3歳:家庭や保育園	母性(1対1) 偶然できたときにほめる	自立性(着脱 排泄 食べるなど) 自分の力に対する自信がつく
3~6歳:家庭や幼稚園	母性と父性との三者(模範や我慢) ※父性との関わりでこころは社会 化	積極性(仲間とけんかしながら仲良 くする力)
小学 (低): 学校や家庭	担任や級友とメダカの学校 規律を理解する	勤勉性の獲得(頑張って成果を上げる喜び→ もっと頑張る)
小学(高):学校や家庭	親密な同性の友人関係(同性とのつながりでこころが安定:修復期)	これまでのこころのゆがみを修復 (これまでのそだちの弱さを同性の 友だちとの密接な関係で修復する)
中学:学校や家庭や地域 関わる人の範囲拡大	仲間 グループの一員 ※自我の確立 「私は~だ。」	集団同一性の獲得 (仲間に会わせて行動する)

- ※父性=「公平性」「厳しさ」「客観性」「権力志向」「成功への執着」など
- ※母性=「温かみ」「慈愛」「主観性」「独占欲」「束縛」など
- ※自我=関わりを通して育っていく自分らしさ(超自我は3歳~幼児期までに大人がつける。しつけ)

思春期の親の対応のコツ 思春期に出る危機サインは親だけでは解決できない。

<思春期は父性の必要な時期>

子供から親への批判を受けとめるには、親が自分の人生に自信をもつこと。親として今まで何を大切にしてきたかを我が子に語れるように。

<この時期 母性は子供が求めてきたときだけ>

母性の「押し売り」「ご用聞き」はやめましょう。

母性は子供にとって気持ちのよい関わりですが、いつまでも包まれていては子供のこころは成長できない。子供の持つ力を阻害する怖さがある。母性には「子供を自分の思うようにしたい」こころの働きがある。

<親以外の大人の役割が大切>

親以外の大人との関わりも子供の心のそだちには大きな影響をあたえる

父性と母性とは、 男性にも女性にも あるこころの働き

親ゆえにでき ないこともあ

る時期。色々な大人と出会い、

モデルをどれ

だけ見ること ができるか

あなたの父性度・母性度チェック

父 性 度	母性度
納得いかないことに抗議するほうである	寛大なほうである
よいと思うことは貫くほうである	人の気持ちが分かるほうである
自分に厳しいほうである	心が広いほうである
決めたことはやり抜くほうである	気配りをするほうである
責任感があるほうである	人の気持ちが和むように話すほうである
他人を指示することが多いほうである	人助けをすることがうれしいほうである
向上心はもっているほうである	人との楽しい時間が好きなほうである